

リサーチ・ワークショップ

哲学者とはどのような人々か？

—概念的・歴史的・社会的考察

【日時】

2019年6月25日（火）
15:00~17:00

【場所】

駒場キャンパス 101号館 2階研修室

【企画者】

若澤佑典
(ヨーク大学 英文学・18世紀研究)

【ワークショップの構成】

15:00-15:30 趣旨説明

18世紀啓蒙（とりわけヒューム）を中心にして問いを具体化する。リチャード・ローティによる哲学像の変奏（「基礎付け」から「会話」へ）についても触れる。

15:30-16:30 講読文献の解説と討議

講読文献 Justin E. H. Smith, *The Philosopher: A History in Six Types* (2016)

以下からダウンロード可能

<https://press.princeton.edu/titles/10698.html>

* 講読文献の予習は必須としない。各自の興味関心やバックグラウンドにあわせて、事前準備や参加を求める。未読の参加者のために、文献解説の時間を設ける。

16:30-17:00 ケース・スタディ

参加者の興味にあわせ、特定の哲学者・テキストについて検討する。参加者による問題提起・文献紹介を歓迎する。



東アジア藝文書院

これまで多くの人々が「哲学とは何か？」と思案してきた。この問いはさまざまな形でパラフレーズされ、主題そのものが変奏されている。今回のワークショップでは「哲学」に対する問いを、「哲学者」に関する問いへと読み替えてみる。「哲学する」人々、すなわち「哲学者」とはどんな人たちなのか。哲学者とは料理人や医師のように、職業の一つなのか。西洋哲学史をひも解くと様々な哲学者と遭遇する。

本ワークショップでは、ジャスティン・スミスの近著『哲学者』の講読を足掛かりとし、哲学者という存在について概念的かつ歴史的に検討する。課題文献ではヨーロッパ思想史の検討が中心となるため、ヨーロッパ以外の地域を研究する参加者からの批判的応答を求める。参加者が特定の哲学者・文献について興味があれば、それにかかわるテキストの持ち込みも歓迎する。専門に限らず、哲学に関心のある学部生・院生・研究者の方々の参加を期待する。

【主催】

東京大学東アジア藝文書院 (EAA)